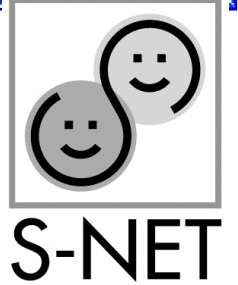


KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞)

広報43号

編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本直也
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町 5-22 永井ビル 3階
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話 090-4937-4904 定価 30 円
ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com



2015 年度 権利をまもるシンポジウム 報告

さがしているのは 「共に生きる未来」です！ ～地域福祉の明日をめざして～

特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン（以下「S ネット」）では、例年権利をまもる講演会を開催しておりますが、今年度は 2016 年 2 月 14 日（日曜日）に、茅ヶ崎市役所分庁舎 6 階コミュニティホールにて、上記をテーマにシンポジウムを、開催いたしました。



シンポジストには、茅ヶ崎で活躍されている益永律子さん（NPOサポートちがさき）と田尻和之さん（車いす利用者）をお迎えし、当法人会員で民生委員児童委員の細川知嗣さんに加わっていただき、コーディネーターは東洋大学の高山直樹教授（当法人元理事長）をお願いしました。

当日朝、大雨で開催できるか心配致しましたが、雨も上がり、70人近くの方々にご参加いただき、盛会となりました。



はじめに、高山教授より、「今日の日本社会は孤立死、虐待、DV、いじめ、体罰、自殺が増え続け後を絶たないのに、縦割り社会で「あきらめと依存」があらわれていること、そこから脱却するためには、行政や専門家だけでは無理で、そこには地域の人達、住民の見守りや発見が必要となり、発見したことをどうつなげ、専門職や行政がどう動いていくかが重要になること、そこにはネットワークが絶対に必要であり、地域住民と専門職と行政のコラボレーションが問題解決への道。自分らしく生きられない社会を変えていくには、何もしない口実となる『仕方がない』を禁句にし、声を挙げて、国の在り方や制度の在り方について市民がどう提案していくかにかかっている。」と、シンポジウムへの解説があり、シンポジストへとつながっていきました。



田尻和之さん

田尻和之さんは、茅ヶ崎市で生まれ、小中学校は地域の通常学級に通いたくさんの友人がいたこと、養護学校高等部ではクラスメイトが5人で孤独だったこと、卒業後は新聞販売店に就職し、毎日自走の車いすで片道50分かけて通勤していると自己紹介され、毎日同じ時間に同じ道を通っている中で「車いすを押しませんか」と声をかけて押ししてくれる人が増えてきていること、「ももいろクローバーZ」のファンで、コンサートに出かけた時に「押しませんか？」と声をかけてくれた「おじさん」と友達になり、同じファンという事でヘルパーではない平等な友達としての付き合いがとても嬉しいと話されました。また、これから一人暮らしをする予定だが、市から福祉サービスの支給が家族と暮らしていた時と同じ量しか提示してもらえず、行政には障害のある人が家族に依存しない「独立した生活に必要な福祉サービスの量」をもっと理解してもらいたいと意見を述べられました。

細川知嗣さんは、会社を定年退職され、自宅で高齢のお母様の介護をしておられること、介護世帯であることから地域の民生委員さんの訪問を受け、その民生委員さんの後任となったこと、民生委員児童委員の役割の中で成年後見制度の必要性を実感し、某大学の市民後見人養成講座で勉強をして知識を深める中でSネットに出会い、活動に参加するようになったこととお話しされ、「ネットで注文しドローンで届いた(冗談!)リモコン」を駆使し、茅ヶ崎市の少子高齢化、独居の増加、人口減少などの推移をパワーポイントを使って数字とグラフで示しながら“体の孤立より心の孤立が心配”「心の孤立をどう防ぐのか」がキーワード、「困った時はお互いさま」「向こう三軒両隣」を流行語大賞にと、災害時要援護者支援制度登録推進



細川知嗣さん

の活動時の例など交え、住民参加による地域福祉の重要性を、熱く語られました。



益永律子さん

益永律子さんは、茅ヶ崎市民活動サポートセンターが行っていることを、一つには、予約なしに自由に使える集まれる場所の提供と、検索できるパソコンや印刷機など活動に必要な機材の貸出、二つ目は情報の収集と発信、三つ目は市民活動の人を育てること、四つ目は



相談・助言で、活動や、財政的な問題についてもアドバイスをすること、五つ目は協働、連携、橋渡しで、活動している一つの団体ではできないことを複数の団体で協働して成し遂げられるように橋渡しすること、と主な活動を紹介され、市ではできない民間だからこそできることに留意し、市民が必要とされていることをしてきたと話されました。

また、明日を担う市民(青少年)にユースボランティアの体験をしてもらいながら伝えていることとして、自分自身の考え方や在り方を「好き!良いな!」と思える自己肯定感を持って、「みんな違ってみんな良い」と多様性を認め合い、違っていいからこそ色々な事ができ、自分が誰かの役に立ちたいと思った時に、相手の方が喜んでくださる、「私が役に立ちたい」と「ありがとう」という言葉が同時に起こることが市民活動の喜びであると伝えているそうです。

制度や枠組みを超えた活動は保障された財源はない場合が多いけれど、対価が得られなくても果敢に活動するということが少なくない、自らだけではおのずと限界があり、支援と支援をつなぐ、支援を仲介するのも重要な役割で、「NPO サポートちがさき」は、市民活動を応援する拠点にと市民活動サポートセンターを運営し、「居場所と、役割と、出番がある社会」にしていくことを目指し、色々な方が活躍できるように足りない所をお手伝いしたいとお話になりました。

事前に質問用紙をお配りしたところ、たくさんの質問が寄せられました。後半に、シンポジストにコーディネーターも加わって、次々とその質問に答えていただきました。



<会場からの質問に答える作戦会議>

田尻さんに、通勤になぜバスを使わないのか、細川さんに民生委員児童委員のなり手がなかなかいないが、良いアイデアはないか、「公の責任」が減退しているように思うがどうかなど、いろいろな課題も浮き彫りになりました。



茅ヶ崎市より手話通訳2名、要約筆記4名を派遣いただき、参加された聴覚障害の方のバリアフリーを実現することができました。



手話通訳者



要約筆記の方々

このシンポジウムは、茅ヶ崎市、社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉協議会、茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会よりご後援いただきました。明日からの皆様の活動のお役に立てたのではと思います。

(文責：江崎康子)



「アウトリーチ型よりそい相談・支援事業」の中で見えてきたもの

平成25年度から開始した、かながわボランティア活動推進基金21の補助金事業「アウトリーチ型よりそい相談・支援事業」実施もいよいよ最終年度、余すところあと僅かとなってまいりました。この3年間、当事業を実施する中で、今まで感じていたこと・初めてわかったこと・今まで以上に強く実感できたこと等、様々な気づきを得ることができました。その一部をご紹介しますと思います。

アウトリーチ型よりそい相談・支援事業とは：現状では安心して地域で生活することが難しい高齢者や障がい者に、制度にはない支援や制度にたどりつくまでの支援「見守り」「傾聴」「外出つきそい」「相談」等を行い、その人らしい主体的な暮らしを実現する事業。

- 一人の要支援者に継続した支援が必要であることが多い。
- 傾聴のニーズが高い。傾聴することで、要支援者のエンパワメントを図ることができる。
- 電話相談が多い。手軽な手段であり、相談の導入として利用される場合も多い。
- 今回の対象は高齢者と障がい者だが、実際には外国人や生活困窮者等、様々な事情を抱える人からの相談もあった。
- 独居の要支援者には成年後見人がついていても、身上監護の側面からこうした支援が不可欠である。
- 制度につなげるまでの支援がないと福祉サービスを受ける事ができない要支援者が多い。
- 場合によっては支援者に専門性が求められる支援がある。(主に精神障害や発達障害について)
- 高齢者・障がい者共、家族からの相談であることが多い。また、夫妻双方の支援を行う等、家族一人だけへの支援では、課題が解決できない場合がある。
- 支援と言うより「対等な人間関係」を求めている人が多い。
- 入所施設であっても職員の数が足りないため、利用者のニーズは満たされていない。入所施設の利用者も、地域で暮らす高齢者や障がい者と同様に孤立している。
- 今までは既存の事業枠でできない支援は「本来の仕事ではない仕事」のイメージがあったが、当事業を実施するに当たり、究極的には、「困っている人への支援は、すべてこの考え方(マンツーマン・枠組みのない柔軟な支援)で行えばいいのではないか」との思いが支援側に生まれた。

当法人は、この3年間の事業報告を冊子にまとめ、多くの方にこうした制度の“はざま”や“つなぎ”の支援の必要性をお伝えしていきたいと思っています。また、今後どのように当事業の成果を反映させていくかを検討してまいります。皆様のご意見を是非お聞かせください。

賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

◇賛助会員会費 ・個人 年額 ー□ 1,000円 (ー□以上)

・法人 年額 ー□ 5,000円 (ー□以上)

◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号：00210-9-75496

口座名義人：NPO法人 Sネットワークオンブズマン

